

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年10月5日

【評価実施概要】

事業所番号	2170101436		
法人名	さわやか福祉ネットワークぎふ		
事業所名	グループホーム 柳ヶ瀬		
所在地	岐阜市金町4丁目28番地 (電話) 058-267-1625		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成19年9月25日	評価確定日	平成19年10月23日

【情報提供票より】 (平成19年9月3日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 7 月 3 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	10 人	常勤 1人, 非常勤 9人, 常勤換算 7人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建て	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	10,000~ 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1月当たり		39,000 円

(4) 利用者の概要(平成19年9月3日現在)

利用者人数	8名	男性	0名	女性	8名	
要介護1		要介護2	5名			
要介護3	2名		要介護4	1名		
要介護5		要支援2				
年齢	平均	82.6歳	最低	76歳	最高	101歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小笠原内科医院 長屋歯科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

交通・買い物に利便性が高い岐阜市の繁華街に建つ開設7年目のホームである。管理者のホームに対するひたむきな想いの下、開設当初からの職員が同じ志をもって、利用者が楽しくその方らしい生活が送れるよう支えている。又、地域にも根付いており、近隣からの差し入れも多い。建物は民家を改修した木造建てで、階段、扉、部屋等全てが昔を回想でき、利用者は風や人の気配を感じながら落ちついた時間を過ごすことができる。更には、穏やかな看取りも数人行なわれた等、医療との連携も充実しており、家族の信頼と安心に繋げている。「ホームは家族である」というグループホームの原点が実感されるホームである。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回改善点なし
①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義を職員同士で話し合うと共に、自己評価を職員全員で行って、日々のケアを振りかえり、ホーム全体のケアの向上に活かしている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地域の民生委員・老人会・市・包括支援センター・家族が出席し、開催されている。災害時の協力依頼やターミナルについて・音楽療法について等、毎回テーマを決めてホームの報告や話し合いが行われ、有効に活用されている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	年2回食事を取りながらの家族会が開催され、ホームと家族又は家族同士の意見交換が行われ、家族の要望を引き出すように努めている。また、訪問する家族が多く、その折にも話を聞いている。聞き取った意見等は、職員会議や理事長との話し合いの中で検討され反映されている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、小学校の運動会や敬老会等行事へ参加している。日常生活の中においても、ごみ出し場の清掃を行ったり、近隣の方より野菜の差し入れが頻繁にある等、地域に自然に受け入れられ交流を持っている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「出会い、ふれあい、学びあい」という理念を管理者をはじめ全スタッフが熟知し、ケアの中で実践して利用者の生活を支えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関入口に理念を掲げ、利用者・家族にも共有されているとともに、月1回の職員会議では常に互いに確認し、日々のケアに活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、小学校の運動会や敬老会等行事への参加をしている。日常生活の中においても、ごみ出し場の清掃を行ったり、近隣の方より野菜の差し入れがある等、地域に自然に受け入れられ交流を持っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を職員同志で話し合うと共に、自己評価を職員全員で行って、日々のケアを振りかえり、ホーム全体のケアの向上に活かしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の民生委員・老人会・市・包括支援センター・家族が出席し開催されている。災害時の協力依頼やターミナルについて・音楽療法について等、毎回テーマを決めてホームの報告や話し合いが行われ、有効に活用している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の状況報告や成年後見制度の利用等の相談を通し、市との連携を常に意識して取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	訪問する家族が多く、その折に利用者の暮らしぶりや健康状態を伝えている。また、ホーム便りでもホームの様子を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回食事を取りながらの家族会が開催され、ホームと家族又は家族同士の意見交換が行われている。また、来訪時にも話の中で家族の要望を引き出すように努めている。	○	意見箱も設置されているが、より直接的に家族の意見を聞きたいとの職員同士の話し合いで、近々家族あてのアンケート実施が予定されている。その活用が期待される。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者の人柄とホームに対する想いに惹かれ、職員の多くが開設当初から勤めており、利用者と家族と職員が家族同様の関係ができている。又、全職員が同じ志を持って利用者の生活を支えている。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は幅広い情報を職員に提供し、希望の研修会には勤務を考慮し、参加できるよう配慮している。研修後は職員間で内容が共有されている。又、経験豊かな管理者の日々の指導の他、職員同士が互いに刺激し合い学び合い研鑽を積んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人経営のホームに利用者と共に職員が訪問したり、イチゴ狩り等と一緒に出かけ交流をもっている他、事例を持ち寄り意見交換も行われている。又、岐阜県グループホーム協議会への参加を通しての交流もあり、ホームの質の向上に努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	新しく入った利用者には、家族の訪問をこまめにしてもらえよう依頼したり、自然に馴染めるよう職員が意識して声かけをする等の配慮をしている。開所時からの利用者が多いので、利用者も暖かく受け入れ、関係作りが自然とできていく。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が勤務を終え自宅に帰る時は、「行ってらっしゃい」、ホームに来た時は「お帰りなさい」と利用者が声を掛け、利用者職員がお互いを思いやり教え合ったりという家族同様の関係作りができていく。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族との会話により、把握した希望や意向は、ノートに記録している。その内容は職員間で共有され、ミーティングで検討し、ケアの中で活かし支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族には、来訪時や電話で意見を聞き、又利用者の表情や日常の様子を考慮しながら全職員で意見を述べ合い、計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月の定時見直しの他、利用者の身体機能や生活意欲の変化を日々さりげなく観察し、必要時にはすぐに見直し、現状にあった支援が行われるよう対応している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	24時間体制の訪問看護や医師との連携により、入院の際は早期退院に向け努力している。先般は入院中の身体機能低下を考慮し、治療がない週末は外泊の形でホームに連れて帰る等きめ細かい支援も行われた。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の内科医・精神科医の往診、訪問看護の他、歯科医の往診もある。受診が必要な際は職員が送迎する等、常に家族であるということ念頭に置き、柔軟に対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時、看取りの基本方針について説明・同意がなされている。その時期がきたら、再度主治医・職員・家族が話し合い、方針を確認している。訪問看護の協力を受け、これまでも数人、ホームにおいて穏やかな終末を迎えた。	○	馴染んだ利用者が終末を迎えるのを見守る職員の精神面のサポートも行いつつ、利用者が幸せを感じながら日々を送れるよう、今後もこれまでの方針を持続されるようお願いしたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員全員により、利用者を人生の先輩として尊厳を守りながらも家族のような親しみのあるケアが日々実践されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝時間等入所前の利用者の生活リズムを尊重している。又、皆で一緒に行くことを強要せず、利用者の気持ちと希望を確認しながら、一人ずつの生活を支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年々身体機能の低下により、食事の準備・後片付けをする方は少なくなったが、利用者の食べたい物をその日その日に聞き、献立を立てるため、利用者の食事の楽しみは大きい。又、刻み食や食べやすいよう調理の工夫にも考慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は1対1で週3回支援している。入浴しない方は足浴を楽しんでいる。訪問当日もゆったりと足浴をし、リラックスした穏やかな笑顔が見られた。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者に、近くのコンビニで卵1パックや牛乳1本等の小さな買い物を頼む等、利用者が役割を自然に持てるよう配慮している。又、音楽ボランティアによるマンドリン・ハーモニカ・ギター演奏、傾聴ボランティア等利用者の楽しみ事も多くある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	柳ヶ瀬のアーケード街や近くの神社に賽銭を持って参拝に行く等、希望に添って毎日順番に少人数で散歩に行っている。又、外出行事の際には職員を増員し、安全に楽しめるような配慮もしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵は一般家庭と同じ管理をしている。外に出て行きたい方には職員は後方で見守りながらついていき、利用者は満足して帰ってくる。利用者同士も互いに見守る体制が自然とできている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム玄関には非常時の水や持ち物が入った一人ずつのリュックサックが用意されており、3ヶ月に1回は利用者も一緒に避難訓練をしている。非常時の避難場所は家族にも連絡しており、非常時・災害時に対しての高い意識により家族の安心を得ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量は個別記録に記入し、一目で確認できる仕組みになっており、必要時には、看護師の指示が仰げる体制作りができています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家改修型のホームであり、木造づくりで階段、扉、建物すべてが昔を回想でき、人の気配を感じながら落ち着ける空間である。リビングには皆が自然と集まり、会話や選択畳み等それぞれの時間を過ごしている。身体機能を補う手すりやエレベーター等は開設時に設置され、安全面にも配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋の形、大きさが全て違うそれぞれの部屋に合わせて、利用者が使いやすいように使い慣れた持ち物が収納され、自分の部屋だという認識をはっきり持つことができる。それだけに利用者は、愛着が持て居心地が良く過ごすことができる居宅になっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。